

東アジア文化研究科の教員の養成の目標

<東アジア文化研究科 文化交渉学専攻>

東アジア文化研究科 文化交渉学専攻では、東アジア諸国が相互依存の度合いを一層強めつつある一方で、諸国間の感情的摩擦が表面化している要因といえる、他国文化に対するスタンスの未成熟さという課題を解決するために、自他の文化を優劣や強弱の尺度から評価するのではなく、一国文化をグローバルな視点から把握する視座と手法を確立し、一国文化主義的発想から脱却して、東アジア文化を絶えざる他者との交渉の連鎖によって形成された複合体としてとらえ、東アジアにおける文化交渉の諸相を人文学諸分野から動態的・複合的に分析する転換を図っている。それを共有する豊かな専門的学識と高度な研究能力を備えた国際的人材としての研究者及び高度専門職業人の育成という教育目標のもと、(1) 東アジア文化に関する高度で専門的な知識を有し、それを活用して人類の知的営みに貢献することができる能力、(2) 「考動力」を発揮して、東アジア文化に関する総合的・学際的視野から、自ら設定した課題を考察し解決することができる能力、(3) 東アジア文化に関する深い理解と高度で専門的な知を的確に伝え発信し、知識基盤社会を支えることに寄与しようとする態度をそれぞれ身に付けた高度専門職業人としての教員を養成する。また修士の学位にふさわしい、柔軟かつ応用力を伴った教科及び生徒指導の実践的指導力により、学校現場で対峙するさまざまな事象や課題の解決にその力量を発揮し、文化交渉学に関する専門的な学術活動における積極的な対人コミュニケーション等を通じて育まれた豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情により、学校経営・学級経営等を力強く牽引していくことのできる、将来の管理職候補としての基盤となる資質・素養を育成する。

(東アジア文化研究科 文化交渉学専攻 中専修免 社会)

東アジア文化研究の教育研究の柱である文化交渉学とは、東アジアという一定のまとまりの中での文化生成、伝播、接触、変容に注目しつつ、トータルな文化交渉の在り方を複眼的で総合的な見地から解明する学問であり、従来の人文学の学問分野ごとの研究枠組の越境と、ナショナルな研究枠組の越境が求められる。そのうえで、東アジアの文化交渉の全体像を把握する方法を身に付け、国境を越えて東アジア全体を多様な文化交渉の連鎖として認識する視座を養うというディシプリンのもと、東アジア文化研究の基本的視角として、「東アジアの言語と表象」、「東アジアの思想と構造」、「東アジアの歴史と動態」の3つの研究領域を設定し、これら3領域のいずれかに自らの研究の基盤となる研究課題を設定し、そのコアとなる研究領域と複合的科目の有機的連動を図り、そこから分野・地域の越境による展開を試みるカリキュラムを編成している。中学校専修免許「社会」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を養成する。

（東アジア文化研究科 文化交渉学専攻 高専修免 地理歴史）

東アジア文化研究の教育研究の柱である文化交渉学とは、東アジアという一定のまとまりの中での文化生成、伝播、接触、変容に注目しつつ、トータルな文化交渉の在り方を複眼的で総合的な見地から解明する学問であり、従来の人文学の学問分野ごとの研究枠組の越境と、ナショナルな研究枠組の越境が求められる。そのうえで、東アジアの文化交渉の全体像を把握する方法を身に付け、国境を越えて東アジア全体を多様な文化交渉の連鎖として認識する視座を養うというディシプリンのもと、東アジア文化研究の基本的視角として、「東アジアの言語と表象」、「東アジアの思想と構造」、「東アジアの歴史と動態」の3つの研究領域を設定し、これら3領域のいずれかに自らの研究の基盤となる研究課題を設定し、そのコアとなる研究領域と複合的科目の有機的連動を図り、そこから分野・地域の越境による展開を試みるカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「地理歴史」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い高度な教科指導力を有する教員を養成する。